

年々広がる市民の輪！

沖縄の基地闘争に連帯、1500人がつどう



フェスティバルその成果と反省・教訓

現在の「実行委員会」が取り組み始めて4年目を迎えた今年のフェスティバル。年々、参加者が増え続け定着感を深めた。それも一般の方々の参加が増え続けている事は嬉しいかぎりであった。いくつかの点を記してみたい。

1. 全体の参加者は一部報道に約1000名とされていましたが、長年の経験からどう見ても1500名以上はくだらないと思った。この手のものは「過剰」な見立てはあるが、「過小」評価したのは妙な感じがした。平和委員会関係では37ある平和委員会の内、35組織が参加した。人数は約200名。北は北茨城、東は鹿行、西は五霞、南は取手と県内隈なく参加し、日頃の憲法守れの運動を確かめ、楽しく励まし合いつどいの意義を深めた。

2. 一般の方々の流れを見ると模擬店をゆっくり一回りして、高校生のバンド演奏とエイサーを見て帰っていった。「9条の会」の交流会や被爆者と語り合う広場はそれ自体、意味あるものだが普通の人にはテントに入りづらかった。一般の人に視線を合わせれば、わたアメを口にして見られるぐらいの展示物（風船爆弾の模型、核兵器の恐ろしさ・実相、沖縄戦の悲劇、戦争

と平和を考えるような写真など）があったらと、残念に思った。

3. 憲法記念日という意味では、9条の条文や日本の憲法が平和憲法と言われることが、親子で語れる展示物をこれからは常設したい。また、今年は沖縄の弁護士を呼んで普天間基地の問題を語ってもらった。しかし、会場には普天間の「フ」の字もない。幸い美和・緒川の平和の会の堀江仙三さんが、「伊達さん、こののぼり旗をどこかに立ててよ」ともってきてくれた。そこには「普天間基地、無条件撤去。みわ・おがわ平和の会」と書いてある。本部のテントのポールに立てさせてもらった。

4. みんなで成果と反省を語り合い、教訓を引き出し来年はもっと大きく輪が広がるよう誓い合いたい。

(伊達)

.....

普天間を返せ！沖縄弁護士の熱き訴え！

阿見平和の会 中山熙之（ひろゆき）

4月25日、沖縄で超党派の大集会が開かれ9万人が参加した。会場に向かう道路脇の看板にこう書かれていた。「ゴミと基地は持って帰るのがマナーです!」。このエピソードで、沖縄出身の仲山忠克弁護士は沖縄県民の思いを端的に紹介した。

米軍の研究では、将校が「打て!」と命令しても、兵士の15から20%がためらって引き金を引けない。だから、上陸強襲部隊である海兵隊員には、ためらいなく人を殺す訓練を徹底してやる。市民道徳が完全に抜け落ちるまで、「kill! kill! kill!」と大声で叫ばせながら、敵を表す人形を射たせ、銃剣で突かせる。

そうやって人間の感情を無くした殺人マシンが大勢いるのが沖縄の基地であり、その殺人マシン達が基地から町に遊びに出る。だから、県民を対象にした、殺人・強姦・ひき逃げ・強盗などの事件が必然的に起きる。

基地が町のど真ん中にあるため軍用機発着時の轟音暴力が毎日

数百回、ときには数千回も襲いかかる。軍用機墜落の危険も1年365日の毎日ある。普天間の基地は直ちに移転しなければならない。県民の我慢は限界に来た。

基地の移転先は、沖縄県内のどこにもない。米軍基地は諸悪の根源であり、戦争誘発の火種である。現にアフガンやイラクに今も沖縄基地から出撃している。基地は無用。その事を沖縄の戦後65年の歴史が証明している。

仲山弁護士は声を震わせて熱く語った。そして、首相が「普天間基地の国外、最低でも県外移設」の公約を破ろうとしていることを厳しく糾弾した。普天間基地はもともと米軍が不法に土地を奪ったものだ。「移設」できないから存続させるなどというのはもってのほかである。首相は、安保条約があるから、アメリカに基地を提供するのは義務だと言う、それなら安保条約そのものの必要性を問わねばならない。県民はそこまで腹を固めている。

沖縄県民の怒りと決意がひしひしと伝わる講演であった。

食糧・農業・平和を考える出会いのイベント

第17回 いざ、田植え

とき 5月23日(日)午前10時～午後3時 雨天決行

ところ 小美玉市(旧小川町)・百里平和農園

費用 年齢×100円(上限1000円)

道具 食器、汚れてもいい服装と靴

内容 作業前に、お米の講習会。

みんなで語る交流会。クイズ大会。etc

主催 一緒に作ろう!「日本のお米」実行委員会

連絡先: 茨城農民連 029-292-8732 (担当・村田)

平和新聞

2010年5月5・15日(土曜日)

1925号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会

1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館 (郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版

No. 563

2010.5/5・15

発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

被爆者と語る若者たち

みとみなみ平和の会 安本真理子

晴天に恵まれたこの日、会場のちょうど中央に原爆写真を張り巡らせたテントに、40人余名が真剣な眼差しでヒバクシャの話に耳を傾けました。今回は、被爆者のお話を伺うだけでなく、青年との対話から「核兵器のない世界」のために私たちは何をすべきなのかを皆で考える企画として準備をすすめてきました。

はじめに、被爆当時小学校6年生であったという茨城県原爆被爆者協議会事務局長の茂木貞夫さんから、8月6日原爆が落とされた瞬間真っ暗闇となり、その闇が明けた時には街人も、全てが一瞬にして破壊され、それまでに隣にいた友人の姿さえ見当たらなくなっていたこと、全身火傷を負いながらも「川に飛び込め！」の声に必死に人や流木であふれかえる川に飛び込み、必死で家にたどりついたこと、その後の治療も油と灰を塗るだけの、治療とはとても言えないものだったことなどが話されました。

続いて当時6歳であった広島原爆資料館で語り部の活動もされていた市川法生さんより、8月6日当日は疎開先の呉の島におり、黒い雨に打たれたこと、翌日叔母を訪ねて家族と広島市内に入ったときに目にした、まるで地獄のような光景、東京に上京してからの「被爆者」に対する差別・偏見の目で見られた辛い思いを語っていただきました。

青年と会場からはお二人に対し「心の傷をどう克服して今のような語り部の活動をするに至ったのか」「偏見、差別は具体的にどのようなものだったのか。どうしたらその部分を私たちは乗り越えていけるのか」等の質問がだされました。広島カープファンでありながら「放射能がうつる」等といわれることが嫌でファンと言えなかったこと、語り部の活動に至るまでには、家族にも語れないほど辛い体験であり、恥ずかしいという思いもあったが、それ以上に自分よりも大変な思いをされてきた方々がいる。命を落とされた方も大勢いる中で、今こうして命あることに「核の恐ろしさを伝えなければならない」という責任感、人の命の尊さを訴え続けていかなければという使命感でこの活動を続けているとの答えに、今私たちがなすべきことが見えてきたような気がしました。

偏見や差別は無知から生まれるものです。核兵器の恐ろしさを知らなければ「核抑止力」という言葉がまかり通る世界を作り出してしまいます。2010NPT核不拡散条約再検討会議が開かれている中でこの集會を「核兵器を減らす」ではなく、「核兵器をなくす」運動にし、国や誰か任せではない一人ひとりの新たなスタートとすることを確認しあって会を閉じました。

今回、被爆体験をお話いただくにはあまりにも時間が足りませんでした。この夏はぜひ、NPT要請団の報告と合わせて、じっくりお二人のお話を伺う機会を地域でも、もたれてはどうでしょうか。



「9条の会」も各地で多彩に活動！

長田満江（つくば在住）

2010年茨城県憲法フェスティバルが開催された5月3日、フェスティバル広場で県内各地の「9条の会」交流会が持たれた。こうした交流会は昨年につき2度目のことである。

今年は各地の「9条の会」代表や事務局長、会員など総数62人が参集した。昨年の43人を大きく上回っている。各「9条の会」が記入したアンケート、それぞれの団体が創意工夫を凝らして発行した機関誌、イベント案内のチラシなどが、テーブルの上に所狭しと並ぶ。それらを1枚1枚手に取り、食い入るように目を通す参加者。去年と同じ風景だ。

交流会は憲法九条土浦の会・福田勝夫さんの司会で始められた（もう1人の司会は憲法9条の会つくば・樋田幸夫さん）。交流会の内容は、①2010年4月4日に開催された「九条の会」関東ブロック交流会の報告、②県内各9条の会の活動内容、③今後の交流活動の在り方、について話し合われた。

九条の会関東ブロック交流集会：全体の参加者は415人、茨城県からの参加者は19人であった。それぞれ11の分散会と青年分科会に参加、関東地域各9条の会の人々がその活動内容、広めるための工夫、財政問題等について報告、参考になった、元気づけられた、との意見が多く出された。全国九条の会は4月現在7505(茨城県内は63)。増加のスピードが鈍っており、今後「九条の会」は積極的な働きかけをする方針という。

県内各9条の会の活動報告：交流会に参加した各地「9条の会」は20団体。すべての参加者が発言するようにとの司会からの要請を受け、各団体が日常的な活動内容や抱えている問題点、その活動の特徴などについて報告した。署名・チラシの全戸配布・学習会や講演会・戦争展など、それぞれが地域の中で出来ることを、地域の人々の協力を得ながら続けている様子がよく分かった。なかには会員で沖縄等に学習を兼ねて訪問旅行をするなど、ユニークな活動をしているところもあり、今後の活動に参考になる報告が多かった。

今後の交流活動の在り方：九条の会関東ブロックで、全県をカバーする「九条の会連絡会」を持っていないのは、茨城県と埼玉県だけだが、埼玉県は設立された9条の会の約半分についてはネットワークで結ばれている。茨城県でも「茨城9条の会連絡会」のような、横のつながりを作りたい、という意見が出される一方、茨城県を1つの連絡会で繋ぐのは大変なので、とりあえずは茨城県の県南、県央・鹿行、県北、県西などのブロック毎に連絡会を作ることから始めてはどうか、という意見も出された。

すでに県西では古河、水海道、石下、五霞などが協力して、日野原さんの講演会を開催するなど、ブロック連絡会の芽が生まれていることも報告された。これらの動きも視野に入れながら、今後については司会者・フェスティバル代表(田村・長田)などで話し合い、具体的な提案をしていくことで、本日の交流会を終えた。

緊急の提案：田村代表から、茨城2010憲法フェスティバルには沖縄の宜野湾市長、名護市長、うるま市長からメッセージを送ってもらっている。これら3市長に、県内各9条の会からお礼と激励の文章を送ってほしい、との要請があった。

また、五霞9条の会代表からは、県内9条の会が連名で「沖縄に基地はいらない」『普天間基地の沖縄県内移転反対』という「新聞広告」を出そう、との提案が出されている。この提案についても早急に話し合い、具体化を検討することにした。